

完成祝賀会並びに 内覧会を開催しました

令和5年4月22日・23日の両日、皆様のおかげを持ちまして無事に新多摩丘陵病院の完成祝賀会並びに内覧会を開催することが出来ました。

大変お忙しい中、完成祝賀会にご参会いただきましたご来賓の皆様また、各方面より内覧会にお越し頂きました多数の皆様に心より御礼申し上げます。

今後も地域の皆様に良質な医療をご提供出来るよう職員一同気を引き締めて精進・努力する所存でございますので、皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



たまきゅう便り

発行
多摩丘陵病院
広報委員会
町田市下小山田町
1401

新病院オープンにあたって

医療法人社団 幸隆会

理事長 島津元秀



多摩丘陵病院は本年5月1日に新しい多摩丘陵病院と多摩丘陵リハビリテーション病院に分かれて、生まれ変わります。病院長はそれぞれ小澤壮治と米川甫が担当します。両病院ともに今まで通り、「生きる力を支え合い、ぬくもりのある医療と看護を提供します」という病院理念を継承し、緊密に連携しながら、患者の皆様に cure と care の両面で、安心、安全、安定した医療、看護のサービスを提供して参りたいと思います。

1982年に開業いたしました多摩丘陵病院は昨年40周年を迎えました。当初、病床数288床からスタートしましたが、地域の患者様、医師会の先生方、近隣の医療機関・福祉施設の方々の暖かいご支援、ご協力を賜わりまして、2度の増・改築工事を経て316床のケアミックス病院へと成長することが出来ました。

しかしながら、近年は初期の設備の老朽化が著しく、建替えが急務となり、2018年に新築移転計画が立案されました。計画にあたり建設用地の獲得が最大の課題でありましたが、地権者様の多大なるご理解とご協力をいただいたことで大きく前進いたしました。

さらに学校法人国士館様のご支援、ご協力により、救急体制の拡充を新病院の大きな柱として計画することが出来ました。

新病院は2021年2月に起工し、2022年2月17日の上棟式を経て2023年2月に竣工し、ついに5月1日に開院の日を迎えることになりました。

新型コロナウイルス禍、働き方改革、物価高など、医療をめぐる環境は極めて厳しい状況にありますが、両病院が今まで以上に地域の皆様に信頼され愛される病院となるように、これから私も幸隆会全職員が、一丸となって精励し、邁進して参る所存です。

関係各位におかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。





多摩丘陵病院の新しいスタート 多摩丘陵病院 院長 小澤壯治

私は令和5年5月1日に多摩丘陵病院の院長に就任いたしました。小澤壯治です。当院で副院長・外科部長を2年余り務めてまいりました。これからは院長として、地域の皆様の声に耳を傾けながら、当院の新たな取り組み等の情報を逐次発信してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

多摩丘陵病院は一般急性期病棟と地域包括ケア病棟を本年5月1日に新築・移転しました。回復期リハビリテーション病棟は、従来の地に「多摩丘陵リハビリテーション病院」として継続運営されます。新病院の病床数は199床、その内訳は一般急性期病棟146床、地域包括ケア病棟53床です。診療科は13の診療科（内科、外科・消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、救急科、麻酔科、リハビリテーション科、婦人科、皮膚科、形成外科・美容外科、歯科）を構え、幅広く地域医療のニーズに対応できる病院を目指します。

従来の診療体制に加えて新病院での新しい取り組みは、消化器内科と消化器外科が緊密に協力して診療にあたる消化器センター体制を築いて、消化管疾患および肝胆膵疾患の総合的な診断と治療を行っていくことです。

さらに、地域包括ケア病棟を活用して、消化器疾患治療後も十分なリハビリテーションを行うことにより自宅退院を目標といたします。救急医療については、救急科を独立させて強化し、地域の救急医療にも積極的に取り組んでいきます。



予防医学として健康管理部門の機能を充実させ、人間ドックや検診において疾病を早期発見して早期治療に進めるよう注力し、地域住民の皆様の健康と生活を守りたいと考えています。昨年から新設しました形成外科・美容外科では、通常の形成外科診療のみならず「医療としての美容」にも本格的に取り組む、患者様の人生の質が向上できるようお手伝いいたします。

多摩丘陵病院のすべての診療科と部門が提供する医療を患者様に十分満足いただける体制をとり、全職員が一丸となって日々精進する所存です。皆様のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



多摩丘陵リハビリテーション病院 院長 米川甫

多摩丘陵病院は本年5月1日を持って急性期を担当する（新）多摩丘陵病院と回復期を担当する多摩丘陵リハビリテーション病院に分かれることとなり、後者は現在までの病院の建物を引き継ぐことになりました。

リハビリの患者は年齢が高くなり、複数の併存疾患を有する場合が多いので臨床検査を行ったり、急性期へのコンサルテーションを要する場合があり、新病院との密接な連携が必須です。幸いに両病院は400m程度の至近距離にあり、検体や患者の輸送手段を構築し、診療協定を結ぶことにより両病院の一体性が確保できるものと考えています。

多摩丘陵病院は昭和57年に整形外科の病院として創立され、当初からリハビリに力を入れてきました。昭和63年には専用のリハビリ室が完成しましたが、当時は理学療法士の国家試験の合格者数は全国でも年に800名の時代でした。その後、多数のリハビリ関係者の努力と高齢化時代に後押しされ、リハビリは発展を続け、当院は現在117床を有する都内でも指折りの施設になっています。

今後、日本の高齢化率はますます進むことが予想されていますが、高齢者の人口（絶対数）は頭打ちの状況が続きます。また少子化対策の予算が増える中、高齢者の予算の増加も期待しがたいです。



すなわち患者さんの獲得を巡り病院間の競争は激しくなると予想され、一定の費用の中で質を向上させることが求められています。

リハビリの目的が、社会の中でその人らしく生きていくことであるとすれば、1人で移動できることは極めて重要です。そのためにはリハビリ訓練室ばかりでなく病棟訓練を強化する事が必要と考えます。また当院では質の向上の一環としてリハビリ外来を（月）（金）まで毎日開くなど、退院後も見据えた包括的リハビリの強化を図って行きます。質の高いリハビリを提供し患者様に喜ばれることが病院の繁栄につながる道と思います。

皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。